

水源地域振興をめぐる情勢

国土交通省 水管理・国土保全局
水資源部 水資源政策課

令和5年10月

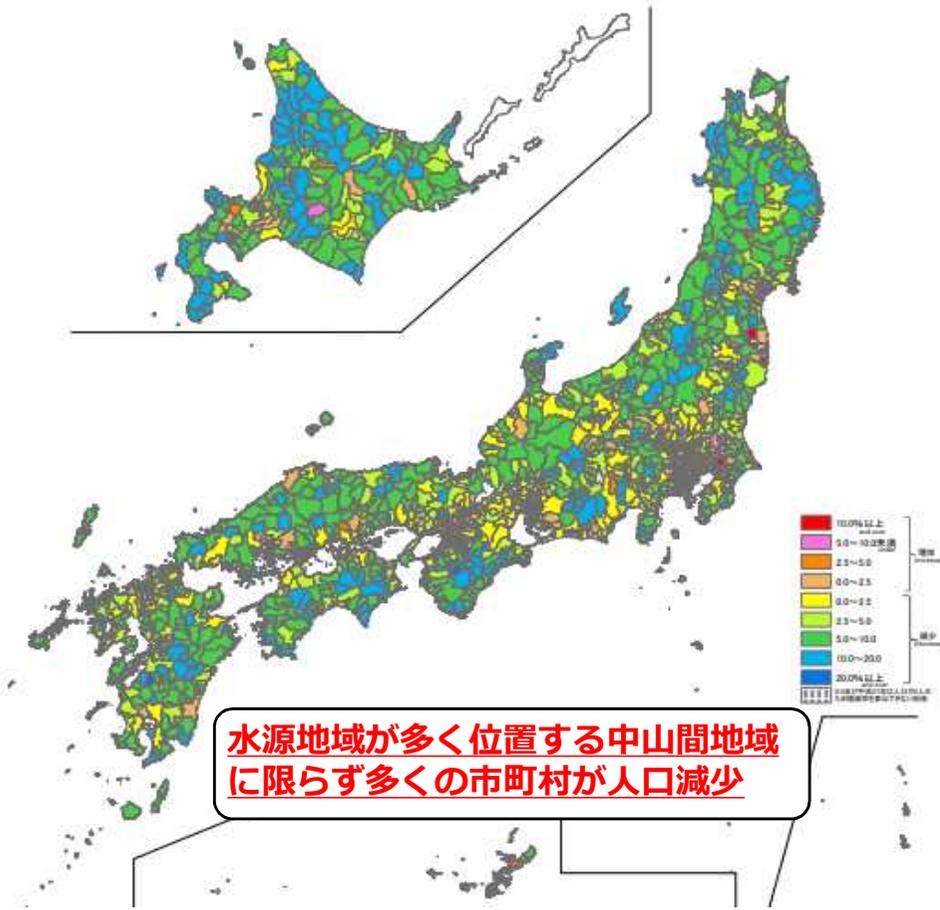
1. 水源地域と受益地域



2. 水源地域振興の重要性

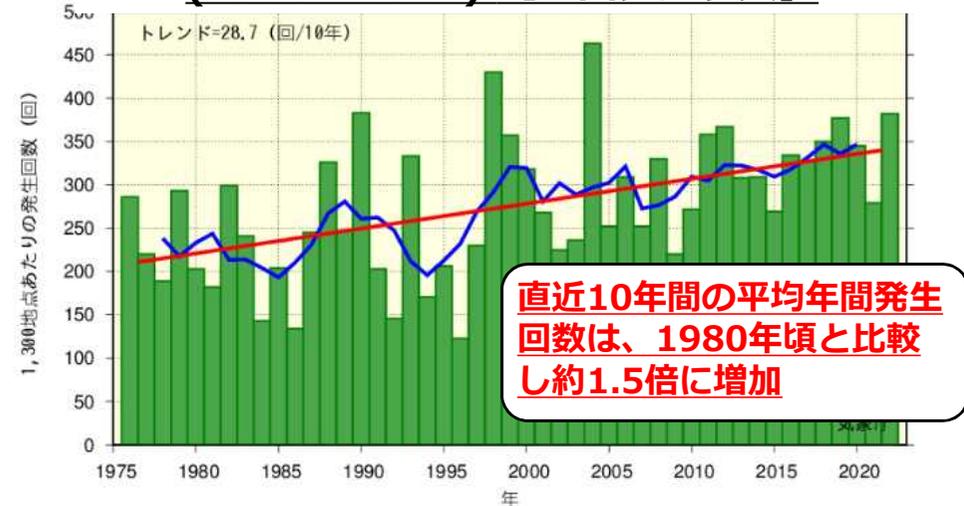
- 水源地域に限らず全国的な人口減少に加え、近年、短時間の大雨や渇水が頻発。
- ダム等を抱える水源地域は、流域の治水、利水、環境などに大きな役割を果たしており、水源地域の振興は、健全な水循環の維持・回復や持続可能な社会の構築において重要性が増している。

**都道府県・市区町村別 人口増減率
(平成27年→令和2年) 【国勢調査】**



出典) 総務省統計局HP

**1時間降水量50mm以上の年間発生回数
(1975~2022) 【全国アメダス】**



出典) 気象庁HP

国管理河川における取水制限の推移(1984~2022)



出典) 国土交通省 水資源部

■ アンケート調査概要

○ 調査目的：

昨今のコロナ禍における地方への移住、定住への関心の高まり、ワーケーションの普及など、水源地域によっては環境の変化の兆しが見えつつある。

このため、水源地域における行政と民間主体との連携、新たな担い手による今後の水源地域振興の方向性などについて検討する。

○ 調査対象者：ダム水源地域を有する全国の自治体（397自治体）

○ 調査期間：令和4年7月15日（金）～8月5日（金）

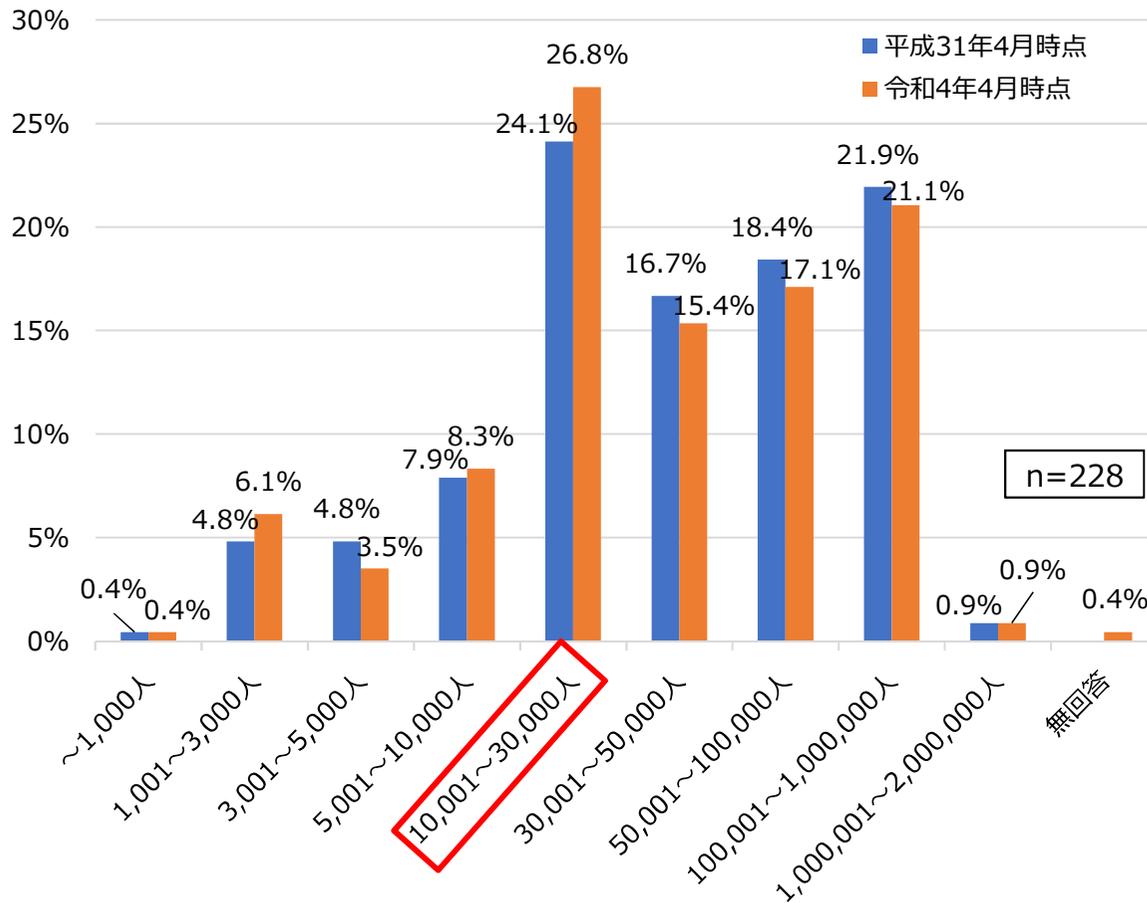
○ 有効回答数：228自治体回答、回収率：57.4%

アンケート結果①（水源地域における人口）

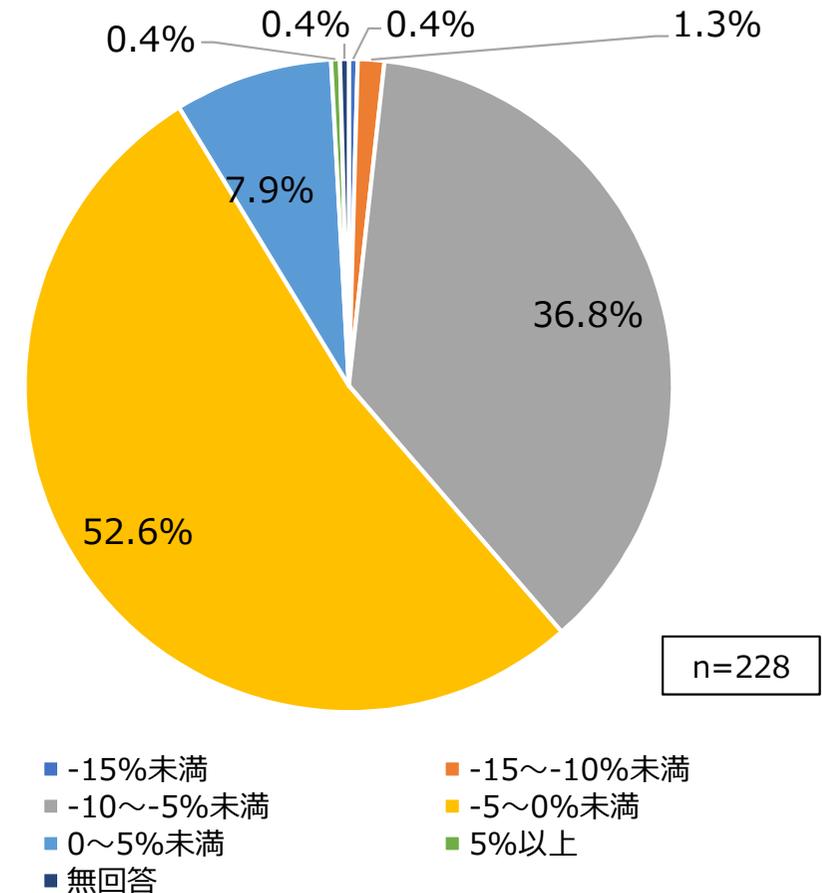
問 1 - 1 貴自治体の人口（住民基本台帳）についてお答えください。

- 水源地域を有する自治体の人口は、「30,001人～1,000,000人」規模の自治体は減少している一方、「30,000 人以下」規模の自治体は増加している。
- 令和4年の自治体の人口は、前回調査（H31）と比較して、約9割が減少傾向。
⇒ 水源地域を有する自治体においても、例外無く人口減少の課題に直面している。

【水源地域を有する自治体の人口の推移（割合）】



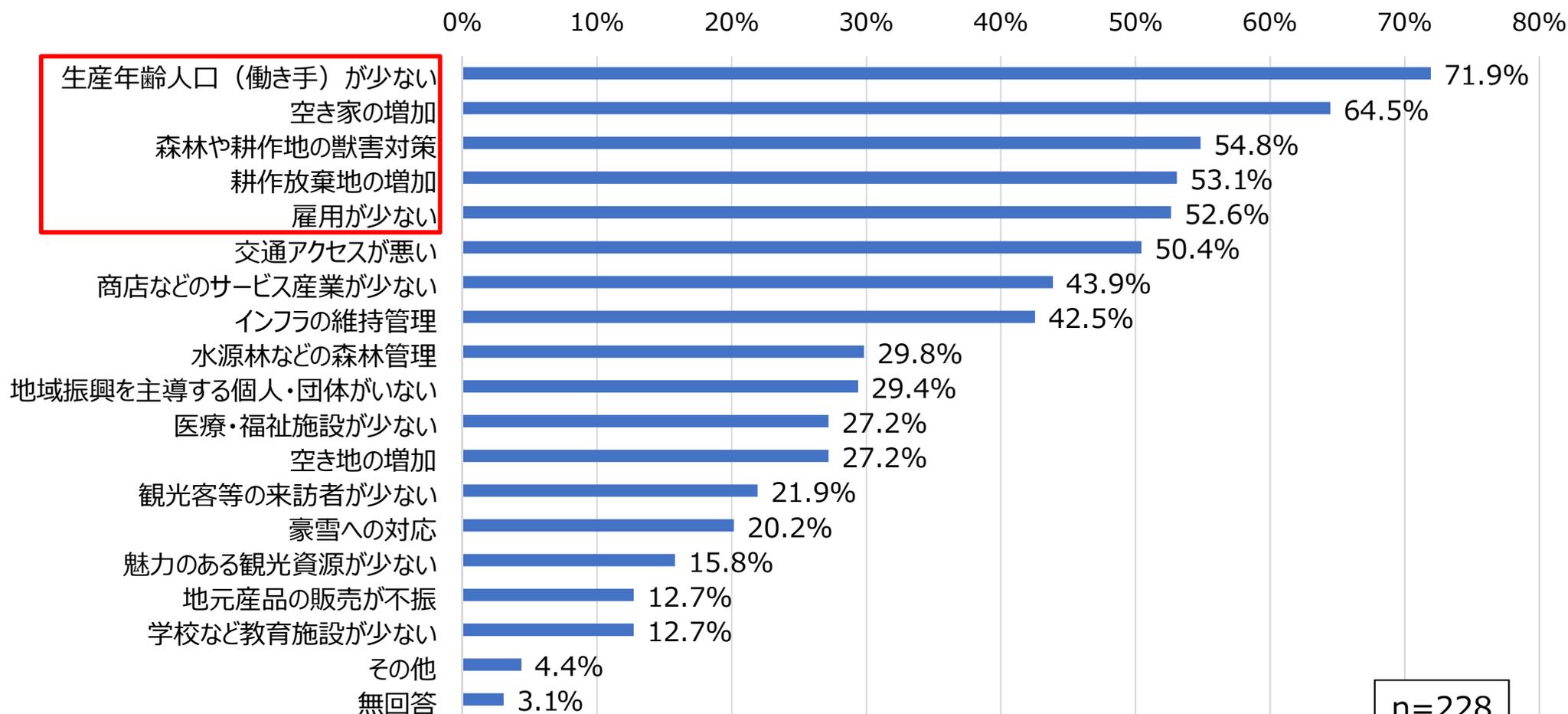
【水源地域を有する自治体の人口の増減率（割合）】



問2-2 貴自治体における水源地域振興の課題についてお答えください。（複数回答可）

○ 自治体における水源地域の課題は、「生産年齢人口（働き手）が少ない」（71.9%）が最も多く、次いで「空き家の増加」（64.5%）、「森林や耕作地の獣害対策」（54.8%）と続いている。

⇒ 上位5課題のうち、「生産年齢人口（働き手）が少ない」や「雇用が少ない」やといった人材確保や生産力・財政力に関わる課題と、「空き家の増加」、「森林や耕作地の獣害対策」や「耕作放棄地の増加」といった中山間地に位置する水源地域ならではの課題が問題視されている。



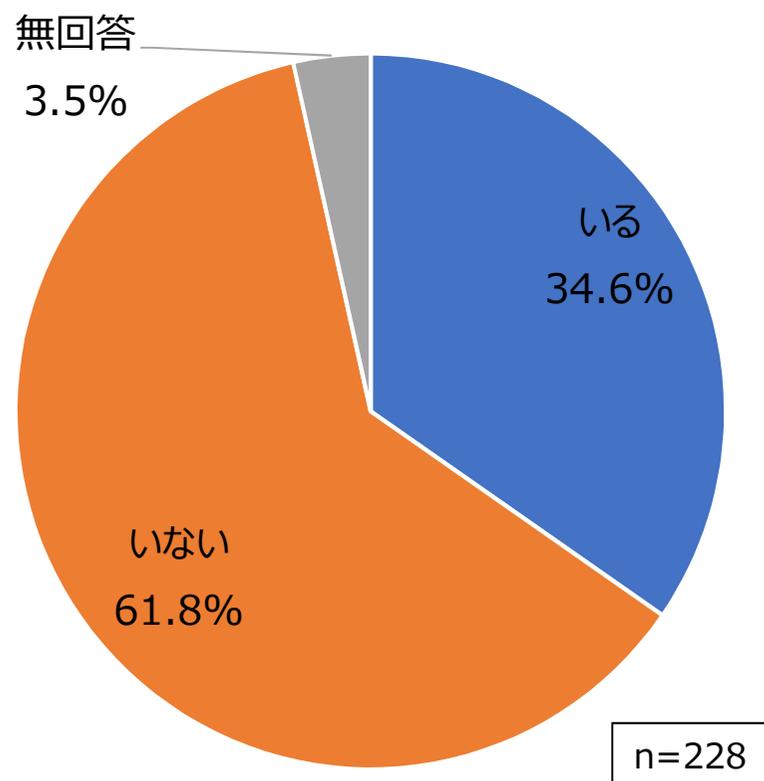
n=228

アンケート結果③（水源地域振興における担い手）

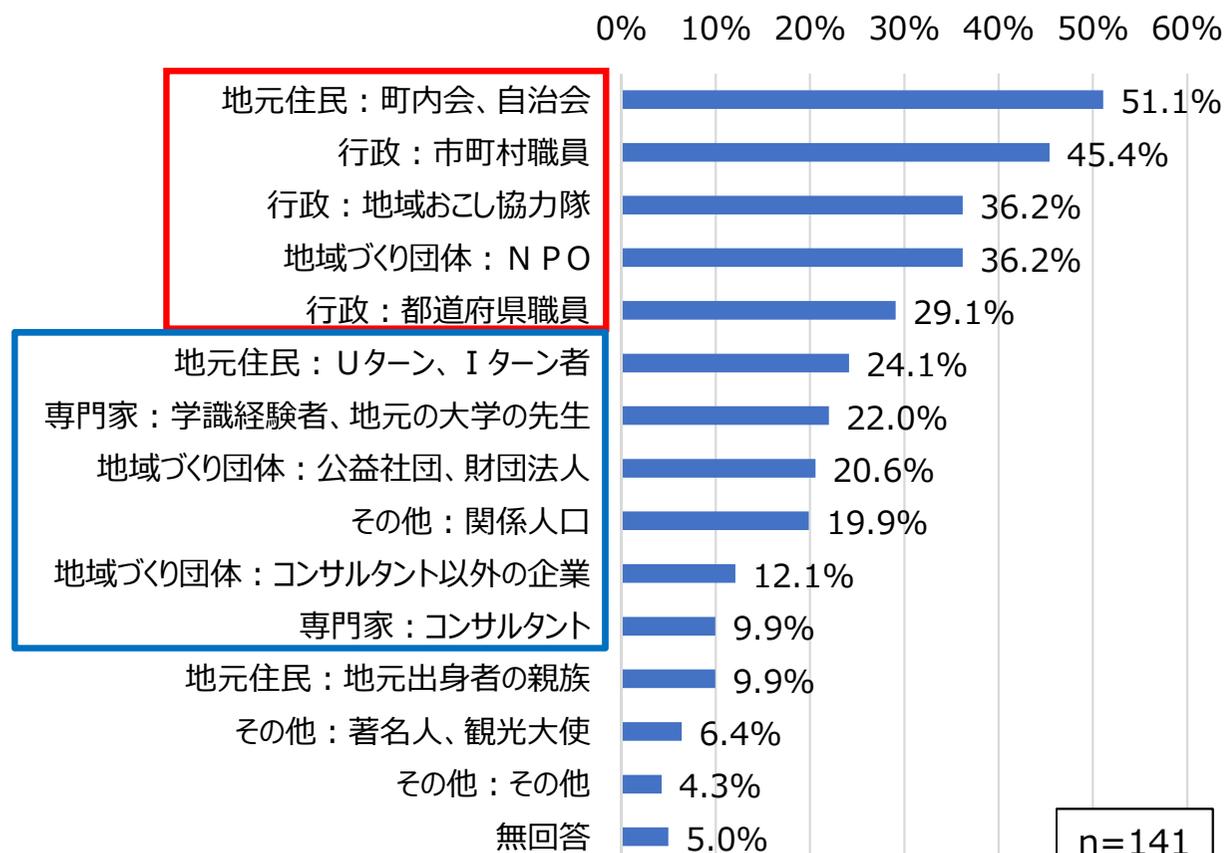
問3-2-1 貴自治体で活動している水源地域振興の担い手はいますか。
 問3-2-2 3-2-1 で「いない」を選択した場合、貴自治体にふさわしい担い手をお選びください。（複数回答可）

- 水源地域振興の担い手が「いない」(61.8%) 自治体は、「いる」(34.6%) 自治体よりも多い。
 - 担い手として、「町内会、自治会」(51.1%)、「市町村職員」(45.4%)を約半数の自治体が挙げており、「地域おこし協力隊」(36.2%)、「NPO」(36.2%)、都道府県職員(29.1%)と続いている。
- ⇒ 多くの自治体で地元に近い者が「担い手」として求められる一方で、Uターン・Iターン者や企業など一定数求められている。

【水源地域を有する自治体の担い手の有無（割合）】



【水源地域振興にふさわしい担い手の分類（割合）】



アンケート結果④（NPO等・企業との連携に期待する分野）

問3-2-4 3-2-3 で「1」又は「2」を選択した場合、NPOに期待しているものをお選びください。（複数回答可）

問3-2-6 3-2-5 で「1」又は「2」を選択した場合、企業活動に期待しているものをお選びください。（複数回答可）

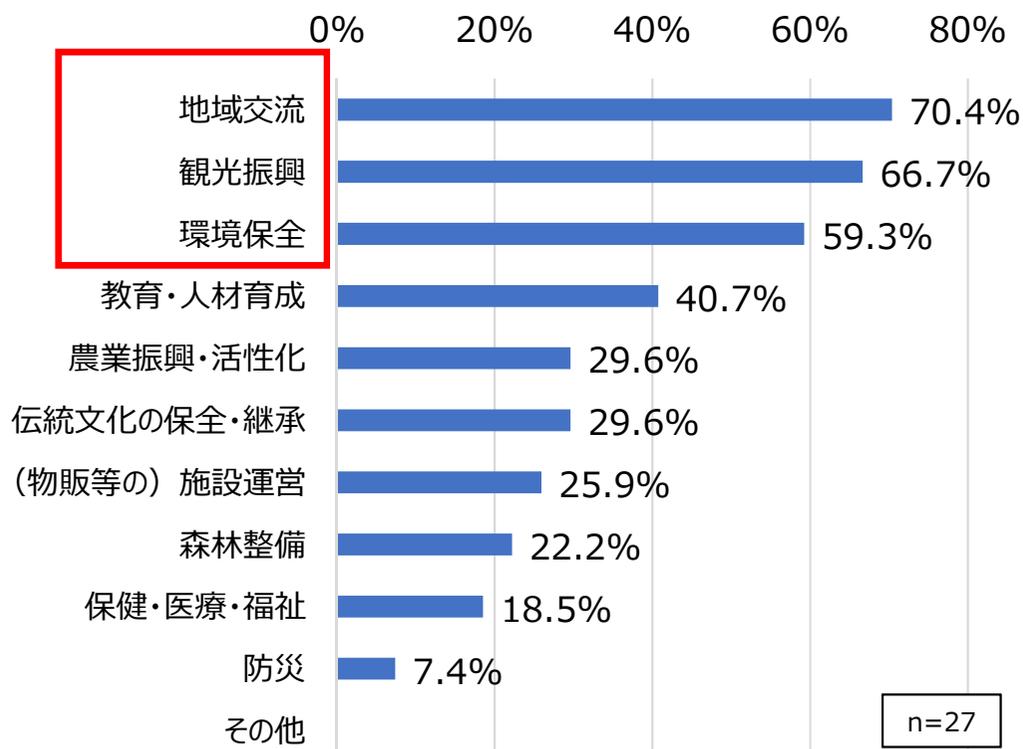
○NPO等の連携において、「地域交流」（70.4%）が最も多く、次いで「観光促進」（66.7%）、「環境保全」（59.3%）と続く。

⇒NPO等の地域の力として、地域内の交流促進や観光等による地域の魅力の発信が期待されている。

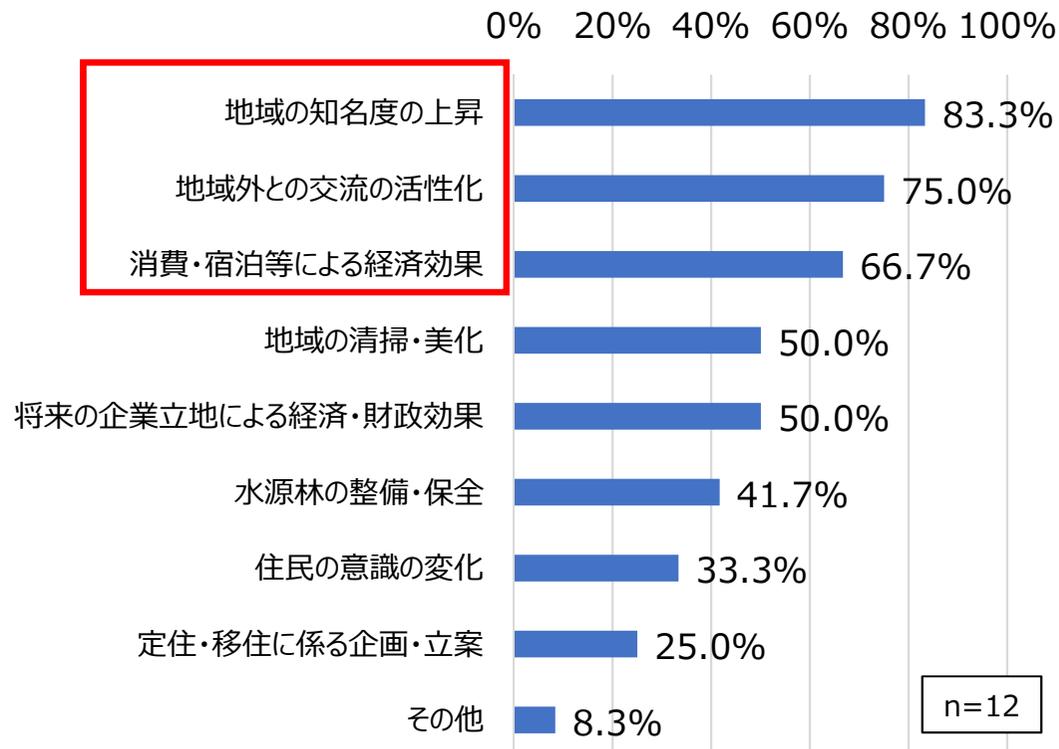
○企業との連携において、「地域の知名度の上昇」（83.3%）が最も多く、次いで「地域外との交流の活性化」（75.0%）、「消費・宿泊等による経済効果」（66.7%）と続いている。

⇒企業などの地域外の力による、地域外への魅力発信や、地域外住民との上下流交流などによる外貨の獲得が期待されている。

【NPO等との連携に期待する分野】



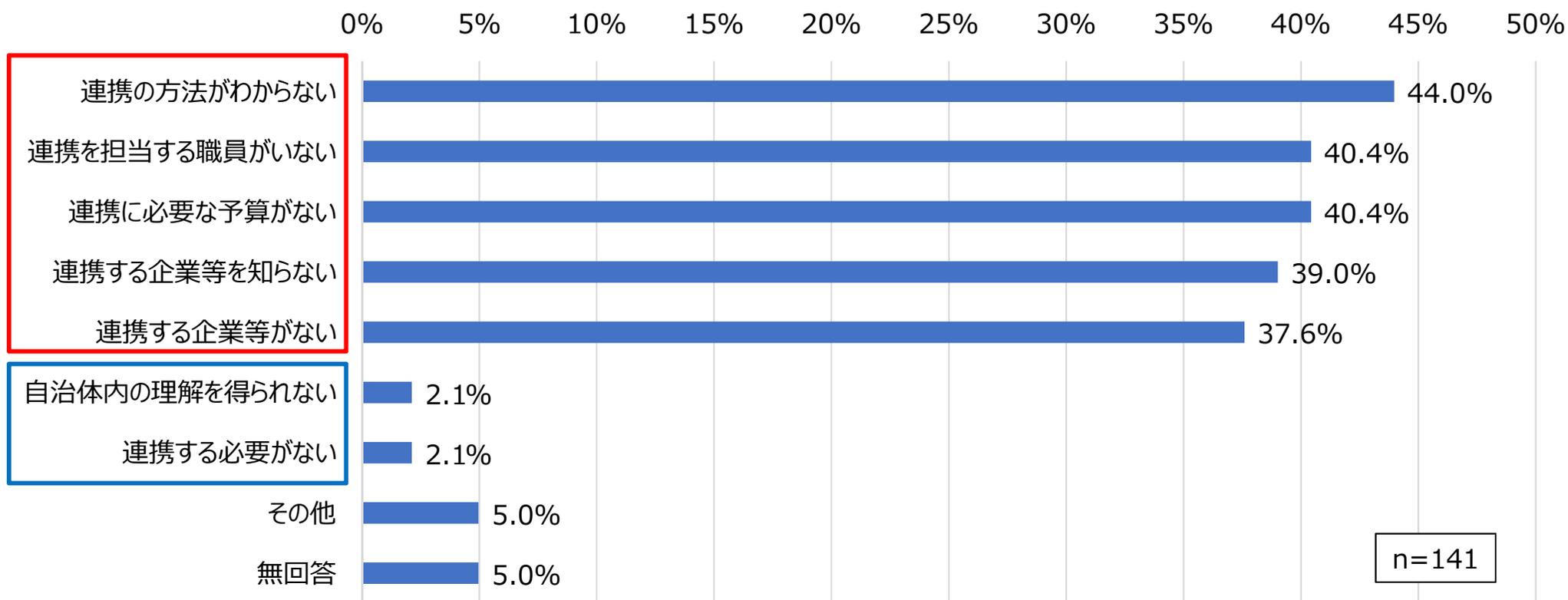
【企業との連携に期待する分野】



問5-6 企業との連携に関する課題をお答えください。（複数回答可）

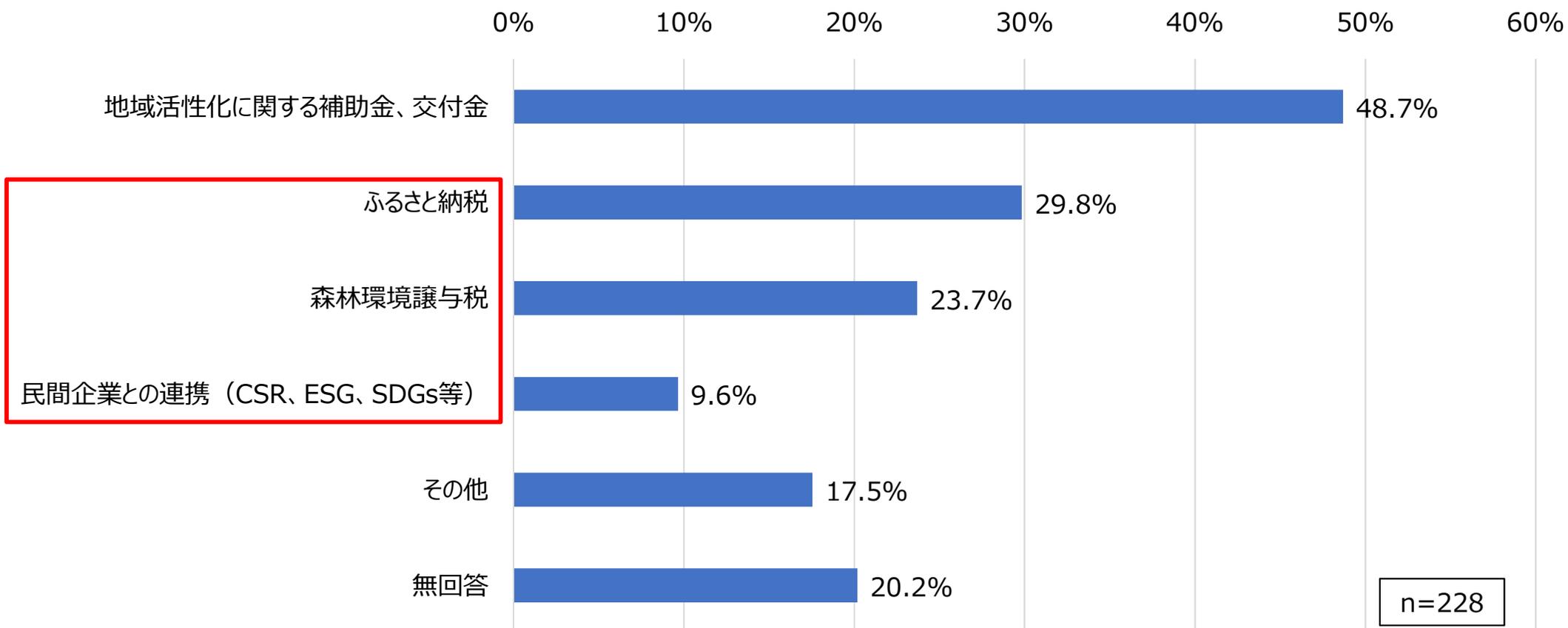
- 企業との連携課題として、「連携の方法がわからない」「連携を担当する職員がいない」「連携に必要な予算がない」など、自治体自身が企業との連携ができるような体制となっていない。
また、「連携する企業等を知らない」「連携する企業等がない」など、企業とのつながりが薄い。
- 一方で、企業との連携において、「自治体内の理解が得られない」「連携する必要がない」と回答した自治体は2%と少なく、自治体としても今後、企業との連携が重要と考えていると思われる。

【企業との連携課題】



問3-3 水源地域振興の財源の一助として、活用しているものをお選びください。（複数回答可）

- 水源地域振興の財源の一助として活用しているものは、「地域活性化に関する補助金、交付金」（48.7%）が最も多く、次いで「ふるさと納税」（29.8%）、「森林環境譲与税」（23.7%）、「民間企業との連携」（9.6%）と続いている。
- 地域活性化に関する補助金、交付金を回答する自治体が多かったが、ふるさと納税や森林環境譲与税を活用する自治体も2割以上を占めている。
⇒ 今後、ふるさと納税や森林環境譲与税の更なる活用が期待される。



水源地域振興のための取組み

① 上下流、流域による自治体間連携

② 企業等との連携

③ 資金調達

④ プロモーション

①上下流、流域による自治体間連携

②企業等との連携

③資金調達

④プロモーション

①-1 上流域と下流域の自治体間連携

- 水源地域振興においては、水源地域である上流自治体と、都市部に位置する下流自治体による自治体間の連携が自治体間協定などの形で行われている。

上下流が連携した水源地域保全活動 (長野県木祖村・愛知県日進市)

長野県の上流に位置する木祖村と、下流に位置する愛知県日進市では、平成4年から友好自治体提携を結び、育樹活動のほか、住民参加による物産イベント開催等の上下流交流を行っている。

- ◆ 「平成日進の森林」分収造林事業
 - ・ 32haの国有林にヒノキ約10万本を植林
 - ・ 期間：1993年～2073年（80年間）
- ◆ 令和4年度友好自治体提携30周年記念事業

両市村小学1年生約1,000人に入学祝い品として木曽ヒノキ箸を贈呈。両市村保育園へヒノキのおもちゃ贈呈（財源：森林環境譲与税）。



矢作川流域での上下流交流 (長野県根羽村・愛知県安城市)

矢作川源流の根羽村と、下流域に位置する愛知県安城市では、環境育林協定を結び、育樹活動等の上下流交流を行っている。

- ◆ 「矢作川水源の森分収育林」を通じた連携

根羽村と安城市が連携して森林整備を推進。平成3年から始まり、全国初の自治体間の「森林整備協定」を締結。
- ◆ 令和4年から新たに「環境育林協定」を締結

令和4年3月に満期を迎えた上記協定に代わり、水源地域の水資源涵養、森林資源の保護・育成・啓発を図るため、新たに「環境育林協定」を締結。
- ◆ 安城市と連携した子供達の教育交流

安城市内の小・中学生を対象に、根羽村で源流でのライフスタイルや林業体験を通じた環境教育の連携を実施。



①-2 流域単位における連携（木曽三川流域）

- 流域の水環境は、上中流域の人々の活動に大きく依存しており、これらの地域では過疎化や農林業の衰退など様々な課題を抱えている。
- 将来にわたり水環境を守るため、流域全体が一体となって議論していくことが必要であり、名古屋市が事務局となり平成23年に木曽三川流域自治体連携会議を設立。現在では45市町村等が参加し、水環境保全に取り組んでいる。

■ 木曽三川流域自治体連携会議

➤ 木曽三川流域自治体サミット

構成自治体の市町村長等が一堂に会し意見交換等を行う会議を開催。

➤ 木曽三川マルシェ

上中流域の農作物や特産品の販売をはじめとした自治体のPRを行うイベントを水道週間行事「なごや水フェスタ」などで開催。

➤ 商談会、ビジネスサミット

上中流域の生産者と下流域の仕入れ企業との商談の場を提供する商談会を開催。

第11回 木曽三川流域自治体サミット 山白川町



木曽三川流域自治体サミット



木曽三川マルシェ

■ 連携イメージ



木曽三川流域自治体連携会議の
マスコットキャラクター「かわたん」



①-3 県内連携の取組(ダム印帳:福岡県)

- 福岡県ダム印帳は、福岡県と（公財）福岡県水源の森基金が連携し、水資源機構やダム所在市町の協力を得て作成。
- 福岡県内ダム管理所にて、ダム印を配布し、それを貼付できるダム印帳を販売することにより、福岡県営ダム等の来訪者を増やし、水源地域の振興やダムの効用の理解促進を図ることを目的として実施。

■福岡県ダム印帳

- 実績
500冊（完売）
令和3年8月販売開始～令和4年3月販売終了
- 参加者数推計
ダム印総数500枚×22ダム = 11,000枚
令和5年9月末時点でのダム印交付数約3,700枚
(延べ参加者数3,700人)
- 特典（全ダムコンプリート者を対象）
 - ・ 特別見学会を開催
令和5年2月3回実施（総参加者数42名）
通常は開放していない監査廊等を案内
 - ・ コンプリートを証する「福岡ダム巡り証」を発行

発売日 令和3年8月2日（月）

販売価格 3,000円（税込み）

販売部数 500部（限定）

福岡県ダム印帳は、県内の水源地域振興やダムの役割等を広く理解していただくことを目的に、福岡県と連携して作成しました。このダム印帳を携えて県内のダムを訪れ、ご記帳し、さらには、ダム周辺の水源地域の豊かな自然や農林産物、歴史・文化などに触れていただければ幸いです。

について

基金での取扱い
 ・公益財団法人福岡県水源の森基金（福岡県福岡市中央区天神3丁目14番31号）
 ・福岡県庁1階 県民情報センター（福岡市博多区公産7-7）
 請求書の取扱い
 ・広くお客電子申請システム
 ※下記QRコードを撮影し「ダム印帳の発行について」をご確認ください。
 ※お問い合わせは、郵送と県内4地区県民情報センターでの受け取りを優先できます。

について

ダム印帳特設ダム見学会への参加
 対象：全てのダム印を集めた計量500名（令和4年2月末日必着）
 申込方法：〒在済念氏必電報番号4メールアドレスを全てのダム印がダム印帳に記載されていることが分かる写真と添付して、下記メールに返信をしてください。

について

ダム名	所在地	ダムの特徴
ア山ダム	福岡県大牟田市	九州電力の黒水村発電所をめぐり南西の大規模なダム
岸田ダム	福岡県多摩郡	西側多摩川により、新に取水容量を増強したダム
岸田ダム	福岡県多摩郡	重なりコンクリートダムとロックフィルダムとの組み合わせで造られる複合ダム
岸田ダム	大野城市	最新の治水ダムでは、初めてロックフィルダム
岸田ダム	本草市	本草市のみで建設された中規模治水ダム
岸田ダム	久山町	県内で初めて、EPCによるコンクリート打設を実施したダム
岸田ダム	藤原町	県内で初めて「地盤にひらけたダム」として建設されたダム
岸田ダム	糸島市	九州初級域であるダムの復元水を活用した「水力発電型」が整備されたダム
岸田ダム	みやこ町	県内の治水化を促進するためのPCD工法を実施したダム
岸田ダム	北九州市	新築されたダムでは初めて、遊歩道や水辺公園を併設したダム
岸田ダム	八女市	新築されたダムで初めてのダム
岸田ダム	うきは市	歴史の宝庫に当たっては、会館やミュージアムを併設し、観光地を兼ねたダム
岸田ダム	豊前市	新築されたダムで2番目に高いダム
岸田ダム	豊前市	国内初歩行式クレーン（Cranes）によりコンクリート打設を実施したダム
岸田ダム	豊前市	国内初歩行式クレーン（Cranes）によるPCD工法を実施したダム
岸田ダム	豊前市	レジャーにより開発したダム
岸田ダム	豊前市	新築されたダムでは初めて、取水設備に副産物（スラッジ）を回収するシステムを採用しているダム
岸田ダム	福岡県	延長は130mの九州唯一のダム
岸田ダム	福岡県	ダム建設「土佐丹波」は、ダム建設に特化している。
岸田ダム	福岡県	ダム建設「東海建設」は、ダム建設に特化している。
岸田ダム	久留米市	治水ゲート下から治水アンダーフローを主体とした治水
岸田ダム	うきは市	新築されたダムで初めて、トンネル工法を採用したダム

問い合わせ
 公益財団法人福岡県水源の森基金 水資源地域振興課（水資源対策課課長室）
 TEL: 092-643-3206 FAX: 092-643-3207 メール: mizuta@pref.fukuoka.jp

※「ダム印帳」の発行はご遠慮ください。

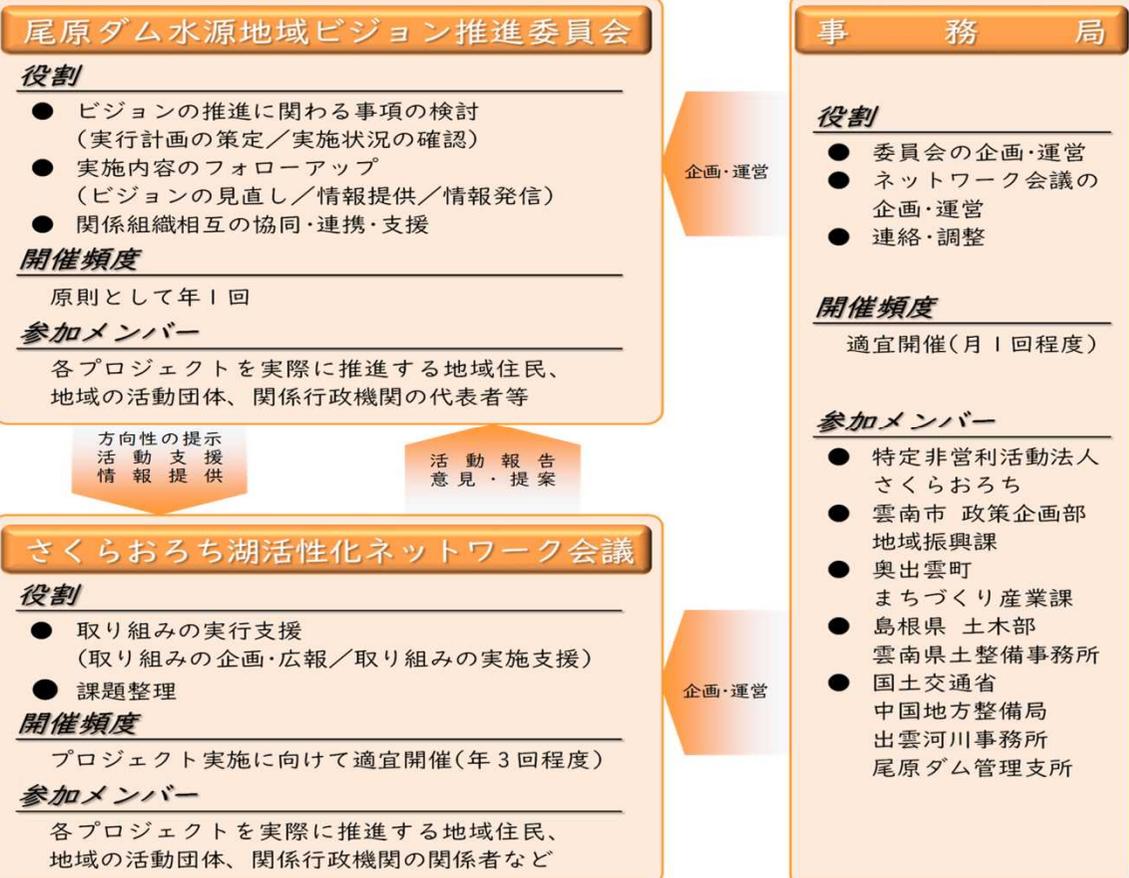
①-4 多様な主体との連携(島根県雲南市)

- ▶ 平成24年に竣工した尾原ダム・さくらおろち湖(ダム湖)は、湖面を周回可能で、ロケーションに優れ、周辺には牧場や温浴施設、道の駅などもあり、年間約14万人の来訪者がある。
- ▶ 尾原ダム水源地域ビジョン「つなげよう、育てよう、活かそう“さくらおろち湖”～みんな、やら～や!～」(平成25年9月策定・令和5年2月改定)の実現に向けた、**地域住民・活用団体・行政機関**で構成される、**尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会**、**さくらおろち湖活性化ネットワーク会議**、**合同事務局**により、多様な主体の連携体制が重要な役割を担う。

上下流域における相互連携



尾原ダム水源地域ビジョン推進体制



① 上流・下流、流域による自治体間連携

② 企業等との連携

③ 資金調達

④ プロモーション

②-1 ダムネーミングライツ(宮城県)

- 宮城県では、厳しい財政状況から、歳出削減等を進め財政の健全化を図るとともに、全庁を挙げて歳入確保策に取り組んでいる。ダムという財産（資源）の有効活用とその環境の維持・向上を図るため、**ダムネーミングライツ**（ダムに愛称を命名する権利）を取得する**スポンサー企業**を募集している。
- 平成23年2月から募集を開始、現在2ダムでスポンサー企業と契約しその収入は**ダムの管理経費**に充当している。

■ダムネーミングライツ

- ◆ 対象施設：宮城県が管理する11ダム
- ◆ ネーミングライツ料：年間30万円（税抜き）以上
- ◆ 契約期間：原則3年以上（契約更新時に優先交渉権を付与）
- ◆ スポンサー対象企業
地域貢献や緑地保全等を支援するなどスポンサーとしてふさわしい企業等 ※ 宮城県広告等掲載基準、募集要項で規定
- ◆ 特典（メリット）
 - (1) ダム入り口等への愛称を用いたダム名看板の掲出
 - (2) ダム堤体等への愛称等の表示
 - (3) 周辺道路案内看板への愛称表示
 - (4) 県のホームページやパンフレット等による愛称の表示
 - (5) スポンサーの希望する日のダム内一部の独占使用（年4回まで）



■導入後の看板等への愛称表示例



愛称を用いたダム名
看板の掲出



愛称を表示した
ダムカードの配布



周辺道路案内看板
への愛称表示

②-2 企業の森ネーミングライツ(東京都水道局)

- ▶ 東京都水道局は、多摩川の安定した河川流量の確保と小河内貯水池（奥多摩湖）の保全を図るため、多摩川上流域の東京都と山梨県に広がる約25,000haの森林を水道水源林として管理している。
- ▶ 参画企業と協定を締結したうえで、水道水源林の一部の森林にネーミングライツを設定し、企業と東京都水道局が連携して森づくりを行う取組み。参画企業からの費用は、「東京水道～企業の森（ネーミングライツ）」エリアを含む水道水源林の保全・育成等に活用されている。

■ 東京水道～企業の森(ネーミングライツ)



- ▶ 水道水源林の一部に、ネーミングライツを設定
 - 金額 .. 年間50万円 / ha
 - 面積 .. 2～3 ha / 区画
 - 期間 .. 3年間
 - 協定企業 .. 12社 (令和5年9月1日現在)
- ▶ 企業が協定エリアで森林保全作業等を実施
- ▶ 年間のネーミングライツ費用合計14,965千円 (令和4年度)
- ▶ この他、企業協賛金制度 (1口10万円) を実施。

💧 協定締結企業等一覧

企業名	① 株式会社クボタ 	② 株式会社宅配 	③ 西松建設株式会社 	④ 株式会社日立製作所 	⑤ 三井不動産株式会社 	⑥ カシオ計算機株式会社
活動エリア名	クボタの森	(株)宅配の森	にしまつの森	きのぼん水源の森	三井不動産 & EARTH FOREST TOKYO	CASIOの森
活動場所 (面積)	山梨県甲州市内 (2.89ha)	山梨県甲州市内 (2.07ha)	山梨県甲州市内 (2.71ha)	山梨県甲州市内 (3.19ha)	山梨県甲州市内 (2.75ha)	山梨県甲州市内 (2.46ha)
協定締結日	令和5年6月3日	令和5年6月3日	令和5年6月3日	令和5年6月3日	令和5年6月3日	令和3年8月29日
企業名	⑦ 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社 	⑧ 日本自動車ターミナル株式会社 	⑨ 株式会社フソウ 	⑩ 京王電鉄株式会社 	⑪ 鉄建建設株式会社 	⑫ 森ビル株式会社
活動エリア名	SMTAMの森	JMTの森	フソウの森	京王水源の森	てっけんの森	森ビルの森
活動場所 (面積)	山梨県甲州市内 (3.01ha)	山梨県甲州市内 (2.21ha)	山梨県甲州市内 (2.77ha)	山梨県甲州市内 (2.04ha)	山梨県甲州市内 (1.98ha)	山梨県甲州市内 (1.85ha)
協定締結日	令和4年7月1日	令和5年8月31日	令和5年8月31日	令和3年9月7日	令和3年9月7日	令和3年9月7日

(企業名は協定締結日順、五十音順)

出典：東京都水道局 水道水源林ポータルサイトみずふる (令和5年9月1日現在)
<https://www.mizufuru.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/create/support/namingrights/>

- 水道事業に携わる企業においても自らの事業継続には「水」は必須であり、**水源保全に対するCSR活動の意欲が高まり**を見せている。
- 岡崎市は、**12の水道事業関連企業と公民連携**し、水道水源林の育成、管理を行う活動やその大切さを伝える啓発活動を「**未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト**」と名付け取組んでいる。

■ 未来へつむぐ岡崎の水プロジェクト

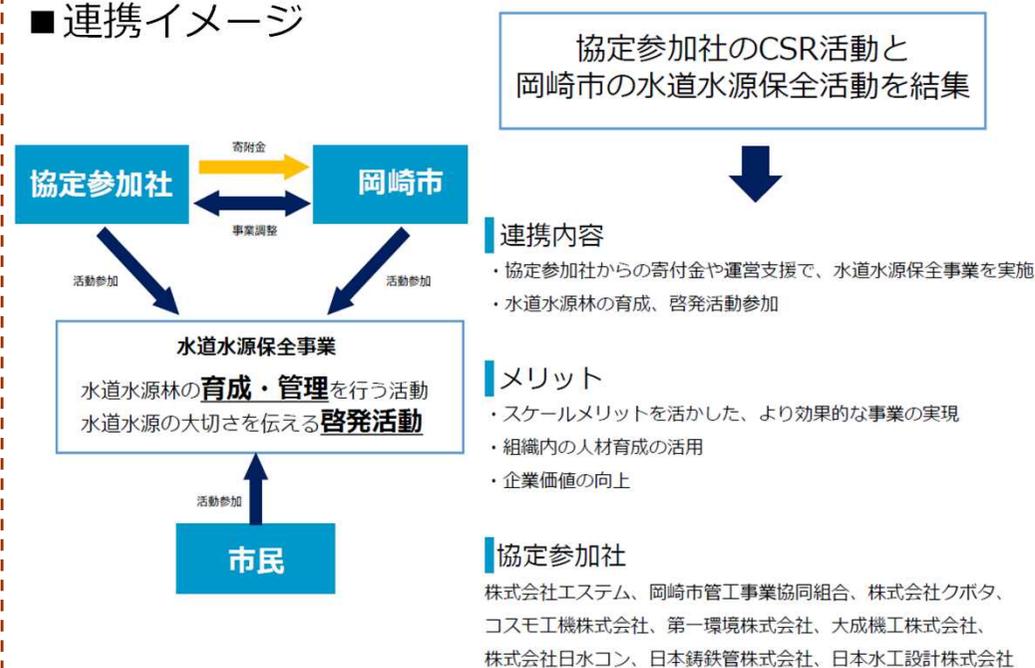
9の水道事業関連企業との連携

- ◆ 岡崎市の水道水源の保全に向けた事業連携に関する3年間の協定を締結
- ◆ 3年ごとに協定を締結し、プロジェクトを継続
(第1期令和2年9月から 第2期令和5年9月から)
- ◆ 協定参加者からの寄付金や運営支援によって水道水源保全事業を実施
- ◆ 水道水源保全事業は協定参加者によって活動内容を決定し、**職員・社員・市民が参加**
- ◆ 各社が行っている**CSR活動**と岡崎市の水道水源保全活動を結集することで、**スケールメリット**を活かしたより効果的な事業を実現

これまでの取り組み

- ・ 間伐体験会 7社 11名 ・ 乙川源流清掃 11社 28名
- ・ 活動場所を選定するための水道水源周辺調査 2回 計43名
- ・ 水源保全活動のための安全講習 2回 計42名

■ 連携イメージ



②-4 香川用水県外水源地学習事業(香川県)

- 香川県では、中学1年生による早明浦ダム・池田ダムなどの水源施設見学に対して、市町への補助事業を実施している。(香川用水通水20周年である平成6年度に事業開始)
- 平成30年度からは、支援の対象を小学4年生にも拡大
- 参加者数は令和4年度までの累計で17万2千人に達した。
- 令和5年度からは、水資源機構の協力のもと、オンライン授業も実施(参加者数：約1,500人)

■ 香川県～香川用水県外水源地学習～



- 早明浦ダム見学
バス1台当たり8万円を市町に補助
- 池田ダム見学
バス1台当たり6万円を市町に補助

- 香川県広域水道企業団と費用負担に関する協定を締結

- 企業協賛金(1口5万円)も活用

◆ 令和5年度協賛企業一覧(50音順)

- | | |
|---------------------|--------------------------------|
| ◆ アオイ電子株式会社 | ◆ 歯ART美術館 |
| ◆ 朝日設計株式会社 | ◆ 株式会社富士クリーン |
| ◆ 株式会社石垣 | ◆ 株式会社フソウ |
| ◆ 株式会社NJS | ◆ 独立行政法人水資源機構
関西・吉野川支社吉野川本部 |
| ◆ 株式会社建設マネジメント四国 | ◆ 株式会社吉田石油店 |
| ◆ 株式会社合田工務店 | ◆ 株式会社レクザム |
| ◆ JAグループ香川 | |
| ◆ 株式会社ジェイテクト | |
| ◆ 四国テクニカルメンテナンス株式会社 | |
| ◆ セトラスホールディングス株式会社 | |
| ◆ テーブルマーク株式会社 | |
| ◆ 電源開発株式会社 | |

計18社が協賛

①上流・下流、流域による自治体間連携

②企業等との連携

③資金調達

④プロモーション

③-1 森林環境譲与税の活用

- ▶ 森林環境税及び森林環境譲与税は、森林の有する公益的機能の維持増進の重要性に鑑み、市町村及び都道府県が実施する森林の整備及びその促進に関する施策の財源に充てるため、創設。
- ▶ 森林環境譲与税を活用し、都市部自治体が、友好都市や上下流等の関係にある上流自治体の森林整備費用の負担や、木材利用の推進など、様々な形で活用されている。

埼玉県秩父市の取組み（荒川流域）

姉妹都市である東京都豊島区と「豊島区と秩父市の森林整備の実施に関する協定書」
令和元年7月締結

- ◆ 秩父市が豊島区の森林環境譲与税により秩父市が所有する森林を「としまの森」(面積1.89ha)として整備
- ◆ 豊島区が「としまの森」を活用し豊島区民を対象とした環境交流事業を実施
 - ・ 秩父市：市有林の有効活用、森林整備の推進
 - ・ 豊島区：埼玉県の認証を活用したCO2排出量の削減
区民の環境教育の推進

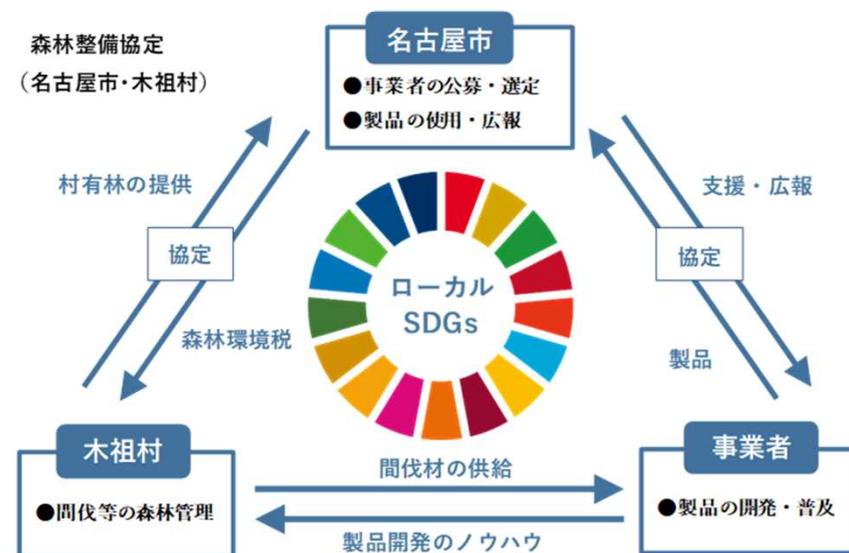


出典：埼玉県HP
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0905/co2ninsyou.html>

長野県木祖村の取組み（木曽川流域）

「名古屋市・木祖村交流の森」整備協定
令和4年6月締結

- ◆ 地域資源を活用し都市と地方が補完し支えあう「地域循環共生圏（ローカルSDGs）」の形成をめざし、名古屋市の水源地の一つである木祖村と協定を締結し、森づくり事業、木材の利用促進事業を進める



- 水道使用量に応じて、使用料金などを積み立て、基金化し水源林保全等に係る事業を実施する取組。
- 豊田市では、水道使用量1立方メートル（1トン）あたり1円を「水道水源保全基金」として平成6年4月から積み立てており、水源かん養事業や水質保全の環境整備を進め、安全でおいしい水道水を供給していくために、全国に先駆けて設けられた。

■ 豊田市水道水源保全基金

豊田市水道水源保全基金を原資として、全5事業を展開し、水道水源の積極的かつ恒久的な保全に取り組む。

- ① 水質保全対策事業
- ② 水源の森事業
- ③ 水道水源林間伐事業
- ④ 水道水源林確保事業
- ⑤ 水道水源林モニタリング事業



豊田市水道キャラクター「ぴっちゃん」

森が育てる水
豊田市公式
YouTubeチャンネル



この動画は、「水源の森」の様子や、水道水源保全事業をわかりやすく紹介しています。ぜひご覧ください。

TOPIC！【水源の森事業】

将来を担う水源地域の中学生を対象に、専門家から森林の役割や間伐の効果などを実際に「見て」「聞いて」「体験」することで、水源林の役割や間伐の重要性を理解するとともに、水源林への興味や関心を高めることを目的として「水源の森探検隊」を開催している。



受講後のアンケートでは、約97%の生徒が、水源林の役割や間伐の重要性について理解したと回答。

・山の役割や間伐の重要性の理解度について（アンケート）



- ▶ イベント等の事業における資金調達の手法として、ふるさと納税の活用がみられる。
- ▶ **ハッ場ダムの点検放流**に合わせ、長野原町・東吾妻町共同主催による一般向け放流イベントを実施。両町においてふるさと納税を活用し、見学のための**限定入場チケット**をふるさと納税の返礼品として、イベントの運営資金として活用。

■ハッ場ダム放流イベント・返礼品概要

- ▶ 日時：令和5年5月27日（土）
- ▶ 主催：ハッ場ダム放流イベント実行委員会
（会長：長野原町長、副会長：東吾妻町長）
- ▶ 参加者：
 - 午前：一般向け181名（プレミアムコース88名、一般コース93名）
 - 午後：町民向け445名（長野原町123名、東吾妻町322名）
 ※ 人数は、いずれも申し込み者数
- ▶ 一般向けコース内容（午前）
長野原町では、ふるさと納税返礼品として、プレミアムコース・一般コースを用意
寄付額5,000円～70,000円までの全6プラン
- ▶ 町民向けコース内容（午後）
ダム放流1回見学（エリアの限定なし）+ 発電所見学（希望者先着順）
- ▶ 利用サイト：ふるさとチョイス等

■ふるさと納税チラシ（長野原町）

長野原町
ハッ場ダム放流イベント

開催情報
開催日：令和5年5月27日（土）
開催時間：真向をご確認ください
開催場所：ハッ場ダム下流荒地
入場方法：ふるさと納税返礼品にて入場券を配布
※ 本イベントは、ふるさと納税の返礼品となります

計画から約70年の時を経て完成し、2020年4月から運用を開始したハッ場ダム。昨年のダム放流イベントで初めてお披露目されたグレストゲート（非常用洪水吐設備）からの試験放流は一部の関係者のみで見学となりました。今回は一般の方にもぜひご覧いただきたいと思い、限定入場チケットをふるさと納税の返礼品としてご用意いたしました。

なお入場券につきましては、一般販売は行わずふるさと納税返礼品のみの取扱となりますのでご了承ください。

寄付はこちら（ふるさとチョイス「長野原町」ページ）：
<https://www.furusato-tax.jp/city/product/10424>
（受付期間：令和5年1月10日～3月31日）

※ 内容が変更となる場合がございます。
※ 見天等で中止となった場合は返金は出来ませんのでご了承ください。

選べるコースとプラン

プレミアムコースのご紹介	一般コースのご紹介
ダム放流 2回見学 + ※お申し込みは、紅葉橋入場 開催時間 9:00-12:15	ダム放流 1回見学 開催時間 10:40-12:15
プレミアムコースのプラン	一般コースのプラン
寄付額 70,000円プラン 3種 ● 特別入場券 3枚 ● ダムサイト駐車場 利用 ● 長野原町感謝券 7,000円 ※3歳以下は入場券を必要としません	寄付額 12,000円プラン 3種 ● 入場券 1枚 ● ハッ場ダム駐車場 利用 ● 長野原町感謝券 1,000円 ※3歳以下は入場券を必要としません
寄付額 30,000円プラン 3種 ● 特別入場券 1枚 ● ダムサイト駐車場 利用 ※3歳以下は入場券を必要としません	寄付額 10,000円プラン 3種 送迎あり ● 入場券 1枚 ● 坂川側遊歩道から 車送迎 ● 坂川側遊歩道から 30分 ● 基礎地区 感謝券 1枚 ※3歳以下は入場券を必要としません
寄付額 20,000円プラン 3種 ● 特別入場券 1枚 ● 長野原町感謝券 1,000円 ※3歳以下は入場券を必要としません	寄付額 5,000円プラン 3種 ● 入場券 1枚 ※3歳以下は入場券を必要としません

長野原町と東吾妻町の両町民限定の放流イベント

長野原町と東吾妻町の皆さまにつきましては、当日午後1時町民限定の放流イベントを予定しております。詳細のお知らせは後日となります。

お問い合わせ 長野原町役場 未来ビジョン推進課
電話番号 0279-82-2229

※ 長野原町提供資料

③-4 ガバメントクラウドファンディングの活用

- ガバメントクラウドファンディング（ふるさと納税型クラウドファンディング）とは、ふるさと納税制度を活用して地方自治体が行うクラウドファンディングのこと。
- ふるさと納税の寄附金の「使い道」をより具体的にプロジェクト化し、そのプロジェクトに共感した方から寄附を募る仕組み。

ガバメントクラウドファンディングのメリット

- ①課題解決のための資金調達
- ②ファンの獲得(地域を応援したい人とつながるきっかけ)
- ③地域内外への事業PR



GCF=ふるさと納税でできるクラウドファンディング

	ガバメントクラウドファンディング	通常のクラウドファンディング
プロジェクトオーナー	自治体 寄付者からの信頼度が高い	個人～法人 誰でもオーナーになれるため 寄付者にて安全性の見極めが必要
税控除	ふるさと納税として税額控除される 実質自己負担2,000円	税額控除対象外 例外の場合もあり
寄付額のペース	平均20,000円～25,000円 高額寄付の可能性も高い	3,000円～5,000円が多い
方式	全てオールイン 寄付額は全額決済され、入金される	All-or-Nothingが多い 目標達成した場合のみ入金
費用	基本契約に内包されているため 新規契約、追加費用なしで導入可能	寄付額の10～20%程度

※ 株式会社トラストバンク提供資料

■取組事例 奈良県川上村

令和6年4月開校に向けた『かわかみ源流学園の設立を目指し、林業発祥の村に相応しい、木をふんだんに用いた温もりある学校づくりを目指す。

- 【第一弾】源流の村の学校応援プロジェクト!川上産材の机を子ども達に!
- 【第二弾】樹齢400年生の吉野杉で製作した『室名札』で自然循環を学ぶ



※ 川上村提供資料

■取組事例 北海道

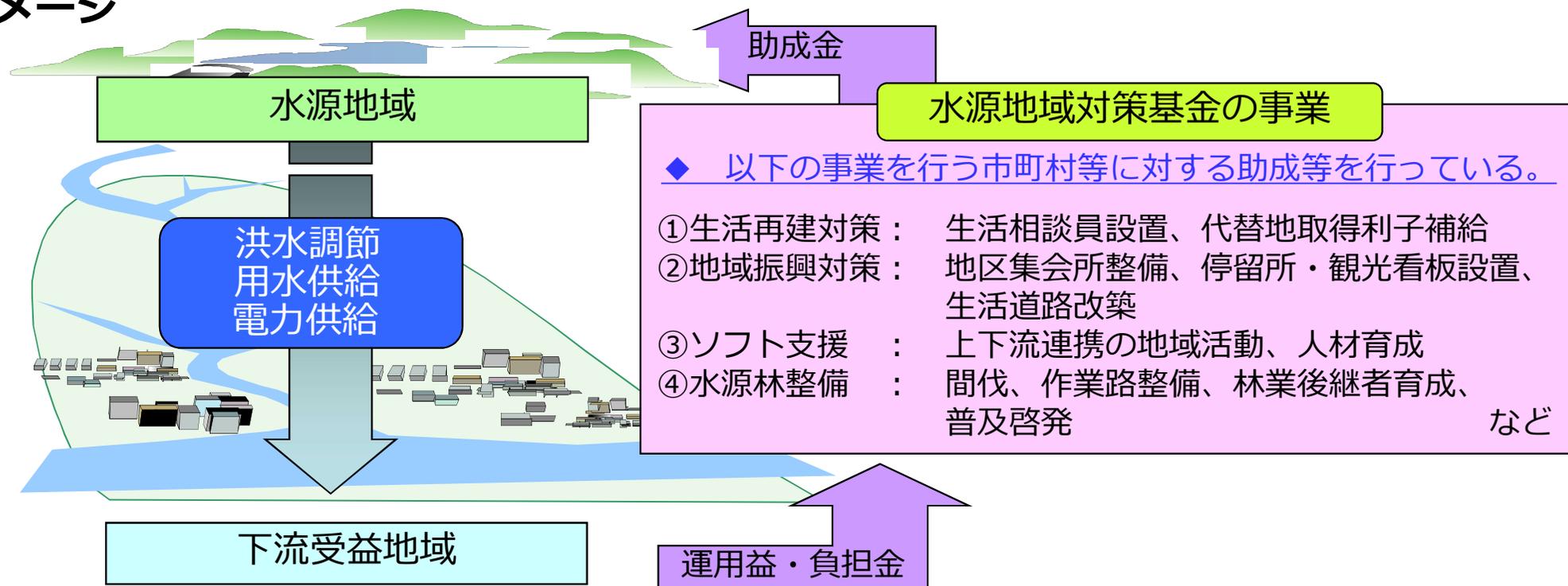
北海道管理ダム18基のダムカードのリニューアル
個人（103件、82万6千円）と、企業・団体を合わせて、117件、164万6千円の寄附があり、**目標金額の150万円を達成**



③-5 水源地対策基金の活用

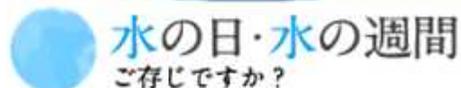
- ダム事業者による補償及び水特法による対策を補完し、きめ細かな生活再建・地域対策を実施するため、昭和50年代以降、上下流の地方公共団体等の出捐により設立。
- 水資源開発促進法の指定水系または複数県域に係る基金について、果たすべき役割の重要性及び広域性に鑑み、国がその運営を支援（基本基金の1/2あるいは1/3出捐）。
- 運用益または地方公共団体の負担金によって水源地域振興に資する事業を実施。

■イメージ



■基金一覧

(公財) 利根川・荒川水源地域対策基金	(公財) 木曾三川水源地域対策基金	(公財) 筑後川水源地域対策基金
(公財) 吉野川水源地域対策基金	(公財) 豊川水源基金	(公財) 矢作川水源基金



水の週間実行委員会 上下流交流活動支援について

水の週間実行委員会は、水循環基本法に基づく「水の日」や「水の週間」の関連事業の一環として、健全な水循環の重要性や、水資源の有限性、水の貴重さ、水資源開発の重要性について、国民の間に広く理解と関心を深めるために、ダム水源地域等の上下流住民の交流を促進する活動を行う団体への助成事業を毎年度行っています。

【対象活動等】

対象団体：上下流住民の交流を促進する活動を行う市民団体その他の団体

対象活動：助成事業の趣旨を踏まえて実施される上下流住民の交流に関する活動で、「水の日」・「水の週間」の前後の期間に行われ、ダム水源地域等の振興等に資する活動。

(例：上下流交流会、水源林保全活動、体験交流会等)

助成金額：1件当たりの助成金の額は10万円以内（飲食費等を除く）

募集時期：毎年5月中旬～6月末日（水の週間実行委員会HPにて募集要項等を掲載）



小鹿野町・川越市のいのちの水を訪ねる
上下流交流事業
(小鹿野町・川越市のいのちの水を訪ねる上下流交流
事業実行委員会)



水源交流事業
(愛知用水土地改良区)



夏休みに思っきり自然体験！！水辺の自然観察
(子供のもり公園活性化協会)



水の週間実行委員会HP

<http://mizunohi.jp/intro/intro11.html>

- ① 上流・下流、流域による自治体間連携
- ② 企業等との連携
- ③ 資金調達
- ④ プロモーション・PR**

④-1令和5年度の「水の日」・「水の週間」の取組

「水の日」PR動画の放映

- 「シャワーズ」及び「水の天使」が登場する「水の日」PR動画をYouTube（国土交通省チャンネル）で公開。
- カウントダウン動画を8月1日「水の日」の1週間前より、Twitterで毎日公開。「水源地」をテーマとして、シャワーズが荒川の河口から上流へあがっていくストーリー。



「水の日」PR動画



カウントダウン動画ツイート

「#水源地行ってみた」キャンペーン

- 実際に水源地を訪れ、撮影した画像をハッシュタグ「#水源地行ってみた」をつけてTwitter、Instagramへの投稿を呼びかけ。



キャンペーン募集HP

#水源地行ってみた



- 「シャワーズ」が3箇所の水源地を訪る。（熊本県熊本市、徳島県那賀町、秋田県にかほ市）
- 水源地の魅力や森林保全、地域振興に携わる人々へのインタビュー等を交えて紹介する水源地PR動画をYouTubeで配信中。



秋田県にかほ市『へば水源地さ！』

「水の日」応援大使『シャワーズ』派遣事業

○地方公共団体が主催する「水の日」関連行事に、行事の実施効果を高め、「水の日」の認知度の向上及び国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるため、「水の日」応援大使『シャワーズ』を派遣。

- ①日 時：7月22日（土）
行事名：エコフェスひたち2023
主催者：エコフェスひたち2023実行委員会、茨城県日立市
- ②日 時：8月4日（金）
行事名：打ち水大作戦2023
主催者：長野県松本市地球温暖化防止市民ネットワーク
（事務局：松本市環境・地域エネルギー課）
- ③日 時：8月19日（土）
行事名：「水の日」イベント in 半田
～みんなあつまれズームイン！のみ水のひみつ～
主催者：愛知県半田市水道事業



日立市のイベントに参加している様子



松本市のイベントに参加している様子

④-2 ポータルサイトの開設（東京都水道局）

- ▶ 東京都水道局では、水道水源林の魅力を知りやすく伝えるためのポータルサイトとして、「みずふる」を令和4年3月より開設。
- ▶ 水道水源林について解説する動画の配信や、誰でも投稿・質問ができ、お客さまと職員が交流できる掲示板による交流などの取組を行っている。



1 東京都水道局ポータルサイトみずふる (MIZU)

東京都水道局が1201 サイト名「みずふる」は東京都水道水源林のゆきや、さまざまなテーマについて、職員が解説します。



【東京の水道水のふるさと】冬は銀世界。多摩川最初の一滴へGo! 【水干（みずび）】

2023年2月27日 7分31秒

みなさんの水は元と雪の水。どこからやってくるのでしょうか？東京都の雪は多摩川、多摩川が流れる期間「水干（みずび）」で、東京都水道局の職員がご紹介します。冬の多摩川遊覧は、都心とはまるで別世界！一面の銀世界をご覧ください。【水干（みずび）をめぐって】のついでに川の流れの様子もご紹介します。



倒木などの有効利用！水源地の〇〇づくり

2022年4月20日 8分20秒

水道水源林の倒木などを使って、おもちゃを作ります。作ったものは、お客様にプレゼント！



④-3 水源地域未来会議の開催

- 上下流交流や地域活性化交流等を通じた持続的かつ自立的な水源地域の未来形成に向けて、取組の課題や先進的な取組事例等を共有し、意見交換を行うことで、各地域の水源地域振興の取組の更なる深化を目指すことを目的として開催。（東京・現地開催の計2回）
- 本年の現地開催は、令和5年10月26日（木）に、岐阜県恵那市・中津川市に跨る水資源機構阿木川ダムにおいて開催。阿木川ダムを活用した水源地域振興のため、自治体等関係者の自分事化を図る。

■東京開催概要

日時	令和5年6月7日（水）、6月8日（木）
場所	星陵会館ホール、千代田放送会館
参加者	延べ約230名（うちWEB参加：約90名）

■6月8日（木）第三部の様子 【自治体の取組紹介】



【有識者からのコメント】



【ネットワーキングセッションの様子】



■現地開催概要

- 日時 令和5年10月26日（木）
9:30～16:00
- 主催 国土交通省
- 場所 阿木川ダム（岐阜県恵那市・中津川市）
- 規模 約50名程度
- 参加者 自治体等担当者を中心に開催
- 有識者 安藤 周治氏 NPO法人ひろしまね
奥田 早希子氏 一般社団法人Water-n
辻谷 貴文氏 （株）アクアサポーターズ
- プログラム

午前：阿木川ダム見学、国交省講演、地元自治体PR
午後：水源地域振興についてワークショップ



④-4 インフラツーリズム

- ダム、橋、港、歴史的な施設等、インフラ施設を観光するインフラツーリズムが注目。
- 「インフラ施設の役割やつくられた背景を学ぶ」ことができるほか、地域と連携した企画に参加することで「インフラ施設周辺の観光資源を楽しめる」のもインフラツーリズムの魅力。

インフラツーリズムポータルサイト <https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/about/>
 四国地整管内での工事現場等見学ガイド <http://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/spotguide/>

過去には、ダム建設事業やダム改造事業をメインにインフラツーリズムとして紹介。

早明浦ダム改造事業は、超目玉事業であり期待出来る。



★ 特別ガイド付きナイトツアー ★

高知県宿毛市に2016年から建設中の「横瀬川ダム」は、全国初の「側水路減勢方式」を採用し、2020年に完成予定です。この度、国土交通省、西松建設㈱の協力により、夜間工事の見学ツアーが実現しました。見学内容は当日の現場の状況により決定!!ダム工事請負会社の宿舎の見学や、コンクリート打設、パッチャープラント内部、打設がない時はタワークレーンの足元付近など、普段見ることのできない場所を見学。

旅行条件
 開催日：土曜日・日曜日を除く毎日
 最小催行人数：2名様（～10名様まで）
 旅行代金：お一人3,000円（税込）
 集合場所：宿毛駅（駐車場有）
 予約受付：1週間前までにお電話等にて

スケジュール
 17:30 宿毛駅集合（メモリアルストーン作成）
 18:00 スワロー会館でダムカレー
 19:00 横瀬川ダム一生涯トンネルを通り建設現場内へ
 右岸展望所→左岸展望所から見学
 ※その他の見学内容は当日の作業状況により現場判断となります。
 21:00 解散



ツアー内容はお客のご要望によりアレンジ可能です。お気軽にご相談ください。
一般社団法人宿毛市観光協会
 〒788-0010 高知県宿毛市駅前町1-703
 (8:30～17:30)
 ご予約・お問合せ Tel:0880-63-0801 Fax:0880-63-0800
 mail:info@sukumo-damuyuhp.jp

1 水害のない流域をめざして(愛媛県) 鹿野川ダム改造事業
 【インフラツーリズム受入可能】

選択取水設備工事として、スクリーン及び空気管の設置を進めています(～2016年夏)。鹿野川ダム洪水吐トンネルの貫通見学会(平成27年12月)では、地域の方だけではなく四国外からも見学者にお越しいただきました。また鹿野川ダム洪水吐トンネルフリーウォーキング(平成28年2月)では、約1200人もの参加者にご参加いただき、今注目されている現場です。

呑口立坑 **選択取水設備** **取水塔**

この範囲から取水し、下流に流すことができます。

呑口ゲート 呑口立坑 選択取水設備
 トンネル洪水吐本体 吐口ゲート室 減勢工

鹿川流域を洪水から守るため、鹿野川ダムにトンネル洪水吐(直径1.5m、延長約460m)を新設しています。また、任意の水位から取水が可能な選択取水設備設置工事を行っています。H28年度秋より選択取水設備の運用を開始する予定です。

完成予想図

- 工事場所 愛媛県大洲市鹿川町山鳥坂280 (鹿野川ダム管理庁舎周辺)
- 見学可能期間 通年
- 見学所要時間 約1時間30分
- 見学可能人数 10～30人程度(少人数・大人数は要相談)
- 関連URL <http://www.skr.mlit.go.jp/yamabosa/>
- 駐車場・トイレ 大型バス乗り入れ可能。常設トイレ有。
- 注意事項 現場見学を希望される方は事前に電話連絡をお願いします。なお、洪水対応等で見学ができなくなる場合がありますので、ご了承ください。

問い合わせ 申し込み先 国土交通省 四国地方整備局 山鳥坂ダム工事事務所 (鹿野川ダム管理庁舎) TEL 0893-34-2350

- 水源地域振興は、地元自治体、市民団体、ダム管理者等が各々取組を進めているところが多く、担い手不足、都市部等への PR 不足、自治体の予算減少等の課題が多い状況です。
- 流域の自治体や多様な組織が連携し、水源地域振興が継続的に実施できる仕組みについて、改めて検討する必要があります。
- 皆様が進めておられる取組や抱えている課題について、国土交通省水資源政策課までお寄せ頂ければ幸いです。